

マルセロ木村 vocal, guitar
コモブチキイチロウ bass
斉藤良 drums

2023 06月11日 (日)

開場 14:30

開演 15:00

(2ステージ入替無) (1drink=600円~)

MC=3700円 +2drinks order

CAFE **BEULMANS**

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail: info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を
ご記載下さい。



コモブチキイチロウ

1966年東京生まれ。香港にて幼少期を過ごす。音楽好きの家庭に育ち、15歳でチョッパーベースのルイス・ジョンソンの演奏に感動しベースを始める。当時は母のクラシックギターの弦を4本にして叩いていた。川端民生氏、ジョージ大塚氏に師事。ピットインなどのジャズライブハウスを中心にセッション活動を開始。90年代中頃からブラジル音楽の豊かさに吸い込まれるように傾倒するようになる。ボサノヴァ黄金期の一人、ロベルト・メネスカルとの出会いを機に1997年に開催されたボサノヴァ生誕40周年コンサート「Gets Bosa Nova」に多くのブラジルアーティストと共に出演。その後ワンダ・サー、カルロス・リラ、ドリ・カイミ、ミュシャ、フィロー・マシャードなどの来日公演をサポートする。サンバの力強いグループを信条に掲げ、ジャズ、フュージョン、ラテン、R&B、ソウル、ポップス、フラメンコなど様々なバンドでも活動を展開している。現在渡辺貞夫クインテット、渡辺真知子バンド、中路英明オバタラ・セグンドにレギュラーメンバーとして参加。オリジナルリーダーバンドの活動としてヴォーカルのCHAKAとデュオユニット【コチジャン】を結成。歌とベースだけのシンプルな世界に挑戦している。

マルセロ木村

1979年ブラジルサンパウロで音楽一家に生まれ、ギタリストである祖父の影響にて幼い頃からギターに慣れ親しむ。タトゥイでMarcos DelHommo, Pachecoよりギターを師事。若干16歳にして、タトゥイの音楽学校より講師のオファーを受け指導。個人レッスンやライブハウス・ラジオ・テレビ局などでも演奏を行い、その後ショーロ・サンバ・ボサノヴァは勿論、ロックやジャズも同等にこなし、それらをクロスオーバーさせた独自のサウンドスタイルを展開。2009年1月にインストゥルメンタル・サンバジャズ・ユニットMISO BANANAを結成し、2010年1月にアルバム『Uirapuru』リリース。サウンドメーカーとしても国内外の多くの有名アーティストより信頼を受け、サウンド提供・アレンジ・レコーディングと幅広くサポート。名古屋にMúsica&Bar Marcelo (ムジカ&バーマルセロ)をオープンさせ国内外の有名アーティスト(小野リサ、パウラ・リマなど)との素晴らしいセッションやサウンドをお届けするとともに、若手に活動の場を与え育成にも力を入れる。日々意欲的に音楽と向き合い、ソロとして世界に向け全国にて活動中。2013年10月に、ソロ名義初となるアルバム『Morro Do Urbana』をモーションブルー横浜でリリースLIVE2014年6月には、地元、名古屋ブルーノートにて「マルセロ木村 CD リリース LIVE」を大成功におさめる。

斉藤良

1978年広島市出身。音楽家の父と画家の母の間に生まれる。7歳で地元の神楽団に入団し、中学進学まで和太鼓や手打鐘を担当する。12歳でドラムに転向し、独学でジャズドラムを学ぶ。高校に通う傍ら、16歳で広島市内のジャズクラブにて清水末寿グループのドラマーとしてプロデビュー。その頃出会った同じく広島出身のピアニスト、丈青 (Soil & Pimp Sessions) と組んだ「Higher Freak Style」というバンドでSONYのオーディションに出場。見事グランプリを獲得する。19歳で上京。その後、鈴木勲、本田竹広、池田芳夫、高橋知己、加藤真一などのグループに参加。2010年、初のリーダーバンド「秘宝感」を結成し、同年1stアルバムリリース。新宿ピットインの歴史に爪痕を残す衝撃的な活動を展開。その後はジャズ、フリージャズ、ブラジル音楽を中心に、小野リサ、Saigenji, orange pekoe, tryphonic、松下美千代 Trio、DOMADORAなど、国内外にて多岐に渡る音楽活動を繰り広げる。また、自己のリーダーユニット「秘宝感」の10年ぶりの2ndアルバム「TIME CUPSUL」が時を超えて2020.8.8.に配信リリース。